

1 基本情報	
施設名又はグループ名	指定管理者名及び団体概要
東京臨海広域防災公園	（指定管理者名）西武造園株式会社 （団体の概要）西武鉄道(株)をはじめとする様々な企業が属する「西武グループ企業」の一員であり、関東圏を中心に全国各地にある81箇所479施設(令和3年3月末現在)の都市公園等の管理運営に携わっている。
指定期間	
R1.2.1～R5.1.31（4ヵ年）	

2 施設名	3 収支(単位:千円)			
東京臨海広域防災公園		令和3年度	令和2年度	公園別支出額 東京臨海広域防災公園：令和3年度→57,609 令和2年度→56,952
	項目	金額	金額	
	収入計	57,609	56,952	
	内 指定管理料	57,609	56,952	
	内 利用料金	0	0	
	支出計	57,609	56,952	
収支差	0	0		

4 管理運営の概要

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が大型持ち込みイベントや公園主催イベントの中止や延期に大きな影響を与えた1年だった。公園を取り巻く状況が変化の中で、管理センターの公園スタッフによる公園の魅力について話し合うミーティングの時間を設けた。公園の魅力がどこにあり、どのように伝えるのかについて考え、「公園の過ごし方」と「おすすめフォトスポット」のリーフレットの作成や管理センターの受付リニューアル等、具体的な成果に繋がった。

また、令和2年度に整備した大規模な宿根草花壇において、ボランティアを募り、維持管理活動を開始した。当初は室内での講座と屋外での実践形式のイベントとして実施を考慮していたが、コロナ禍の影響もあり、任意参加のボランティアという形に落ち着いた。

ガーデニングの専門家を講師として招き、植物の種類や季節による手入れの違いを丁寧に指導していただいた。

イベントについては、展示やセルフイベントを中心に、警察・消防・自衛隊等の公共団体の他、地元の野鳥愛好家や動物専門学校と連携したイベントを実施した。

5 管理状況（維持管理）

【地域のコミュニティの場の創出】

- ・都立公園と国営公園の境界部に令和2年度造成した大規模花壇で維持管理のボランティア活動を開始した。ガーデニングの専門家を講師として招き、植物の種類や季節ごとの管理手法について、細かく指導をしていただいた。今後は講座として、花壇のデザインやリース作りなどのワークショップをグループで行う等、よりコミュニケーションを活性化させる取り組みを行いたい。
- 【安心・安全な公園緑地空間の提供】
- ・都立公園と国営公園にまたがるヘリポート付近の芝生広場にて自動芝刈り機を4台導入した。はじめは埋蔵物等の関係で上手く稼働しない事が多く、夏場に関しては草丈が伸びるのも早く、一度委託作業として、自動芝刈り機のエリアの芝刈りを実施した。その後、機械の調整等を繰り返し実施し、順調に稼働するようになり、常に一定の刈高の芝生環境を提供することができた。

6 利用者アンケート結果

実施方法：

施設名	総合満足度	植栽管理	施設の清潔さ	安全・安心	職員の対応
東京臨海広域防災公園	4.6	4.6	4.8	4.6	4.8

7 入園者数の状況（単位：人）

施設名	当該年度	分析
東京臨海広域防災公園	158,212	昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中ではあるが、新しく造成した花壇で地域協働の開始や近隣の動物専門学校との連携等、新しい繋がりを持つことができた。また、警視庁や消防庁、自衛隊等とも引き続き展示イベントを通して繋がりを保つことができた。また、園内の魅力を伝えるためのツールを作成したり、園地の利用ルールを再整備する等、コロナ禍で変化した公園の利用方法に柔軟に対応した。
合計	158,212	

都立東京臨海広域防災公園

＜東京臨海広域防災公園の基本的な考え方＞

- ①“都市の魅力を高める”公園づくり
- ②“高度防災都市を支える”公園づくり
- ③“生命を育む環境を次世代に継承する”公園づくり
- ④“豊かな生活の核となる”公園づくり

⇒魅力的な公園づくりを推進！



1. 地域のコミュニティの場の創出

●都立公園と国営公園の境界部に新たに大規模花壇を創出！地域のボランティアを募り、維持管理を開始
 令和2年度に造成した宿根草と一年草を織り交ぜた大規模花壇で、新しく地域のボランティアを募集し、維持管理のボランティア活動を実施した。ガーデニングの専門家を講師として招き、年間を通じた植物の変化を楽しみながら管理の仕方を学ぶことができるスタイルが大変好評だった。

今後は、花壇のデザインの仕方等、より実践的な管理の手法を学べる講座を開催し、さらに「魅せる・伝える」ことに繋げていく。



2. 安心・安全な公園緑地空間の提供

●自動芝刈機における維持管理の状況

ヘリポート付近の芝生広場に計4台の自動芝刈機を令和2年冬季に導入し、令和3年度の春季より本格運用を始めた。

4～6月の芝刈高で自動芝刈機の導入エリアと非導入エリアで最大29cmの刈高差が発生した。導入エリアは4～6月は3～8cmを維持しており、快適な芝生空間を提供することができた。



都立東京臨海広域防災公園

3. 地域と連携したイベントの開催

●近隣の動物専門学校とふれあい動物園を初開催！

新型コロナウイルスの感染者が減少した時期に、近隣の動物専門学校との共催で「ふれあい動物園」と「犬のしつけ教室」を開催。久しぶりのイベントに参加した子供たちも大喜びでした！



●セルフイベント、展示の充実

コロナ禍を受け、セルフイベントや展示等、個人で楽しめる仕掛けを充実させた。



4. 公園の利用促進・魅力アッププロジェクト



●公園での過ごし方を提案！「1Day Park Plan」

&公園のフォトスポットを紹介したリーフレットを発行！

公園の魅力や公園をもっと楽しく利用してもらうために、スタッフ全員で公園の魅力をどうすれば伝えられるか会議を実施。

「公園での過ごし方」と「公園のフォトスポット」の2つの視点で公園にスポットをあて、新しいリーフレットを作成した。近隣のマンションを中心に73箇所3896枚を配布し、園地利用の促進に繋がった。

●管理センター受付

リニューアル！

管理センターの無機質な雰囲気を、来園者が入りやすいよう温かみのある雰囲気に変更！

5. 園内の利用ルールづくり



●園内の利用ルールの再整備の実施

コロナ禍で多くのスポーツ団体が園地を占有することが多くなってしまったことを受け、看板の設置、巡回の強化、利用指導マニュアルの整備を行い、利用指導の強化を行った。

その結果、前年度のスポーツ団体利用の件数が137件から75件にまで減少した。